

平成 29 年度

第 1 回

士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

議 案

顛 末

日 時：平成29年 6 月 8 日(木)

午後 1 時30～ 2 時50分

会 場：士別市民文化センター研修室

会 議 次 第

1 開 会

[東川総合企画室長]

- 平成 29 年度第 1 回士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開会する。
- はじめに、新規委員の皆さんに委嘱状を交付させていただく。市長が皆さんの席に、回り順次、辞令をお渡しするので、お受け取りください。
(新規委員順番に読上げ)

2 委 嘱 状 交 付

- 市長が委員の席に順次移動し、氏名を読み上げながら辞令を手渡す。
- 委員は、その場で受け取る。(辞令交付者：市長、補助者：坂本主幹)

3 挨 拶

[東川総合企画室長]

- 牧野市長から挨拶をさせていただく。

[牧野市長] … [挨拶]

4 議 事

[東川総合企画室長]

- はじめに、議長については、昨年に引き続き、士別商工会議所の鈴木勉委員にお願いしたい。

[東川総合企画室長]

- それでは、鈴木議長からご挨拶願いたい。

[鈴木議長] … [挨拶]

(1) 地方創生交付金事業の取り組み状況について

[鈴木議長]

- それでは議事を進める。
- 議事の(1)、「地方創生交付金事業の取り組み状況」について、事務局からの説明を求める。

[大橋企画課長] …説明(資料：総合戦略パンフレット)

○はじめに、総合戦略の概要について説明する。

[木村企画課主査] …説明（資料１）

○「地方創生交付金の活用状況」について説明する。

[鈴木議長]

○説明内容について、ご質問・ご意見をいただきたい。

[吉田委員]

○拠点整備交付金について、不採択ということであるが、計画期間５カ年のうちに施設の整備を完了させるのか。

[大橋企画課長]

○地方創生交付金に頼らない整備について、財政状況を勘案した中で検討していく考えである。また、その他の交付金があれば活用していきたい。

計画期間の最終年度である31年度までの整備については、検討中である。

[中峰総務部長]

○企画課長の説明のとおり、財政状況を踏まえ検討し、計画をもって進めていきたい。

[鈴木議長]

○拠点整備事業について、再度、申請はできるのか。

[中峰総務部長]

○再申請について、今回の申請は、改修に近いかたちで伝わってしまった部分がある。交付金申請に係る事業の組み立て方が重要と考えるが現状の内容での再申請は難しいと判断している。

[鈴木議長]

○拠点整備事業はどのような内容か。

[木村企画課主査]

○内部改修事業として、浴室改修工事、床壁改修工事、空調ファンコイルユニット更新工事、外部改修事業として、外壁改修工事、屋上防水改修工事、その他として休憩室の備品更新等の内容となる。

（２）総合戦略の取り組み状況について

○次に、議事の（２）、「総合戦略の取り組み状況」について、事務局からの説明を求める。

[木村企画課主査] …説明（資料2）

士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施状況シート
重点プロジェクト1

○1～3ページの「農業未来都市創造事業」について説明する。

○「農業未来都市創造事業」について本市の検証を説明する。

○本市の検証として

総合戦略に記載している基本戦略に沿って、重点プロジェクトである「農業未来都市創造事業」を計画どおりに実施しており、指標であるKPIについては、農業体験者数やICT農業研修者数など順調に増加している一方で、新規就農者数、羊新規飼養者戸数に伸び悩むなど、一部課題もあるが、総体的には、一定の成果があり、事業の効果があつたとしているところ。

平成29年度については、未達成の事業については、改善を加え引き続きKPI達成に向け事業を展開していく。

[鈴木議長]

○「農業未来都市創造事業」説明内容について、ご質問・ご意見をいただきたい。

[鈴木議長]

○【No.6】移住促進事業について、どのような方が利用しているのか。

[大橋企画課長]

○体験移住住宅で受け入れを実施し、上士別町の受け入れ住宅は夏の期間、朝日町は夏冬の期間受け入れている。利用者は、全国各地から来ていただいている。体験移住住宅を拠点に、散策や観光など利用は様々。平成28年度の延利用者は延べ699人となった。

[鈴木議長]

○引き続き、事務局からの説明を求める。

[大橋企画課長] …説明（資料2）

重点プロジェクト2

○4～6ページの「合宿の聖地創造事業」について説明する。

※KPI「新規招致チーム数」平成28年度実績6チーム⇒9チームに訂正

○「合宿の聖地創造事業」について本市の検証を説明する。

○本市の検証として

総合戦略に記載している基本戦略に沿って、二つ目の重点プロジェクトである「合宿の聖地創造事業」を計画どおりに実施しており、指標であるKPIについては、合宿者数や新規招致チーム数、スポーツイベント参加者数などが平成

27 年度から増加している状況であり、すべての事業について順調に進んでおり、KPI の達成に効果があったと考えている。

平成 29 年度については、特に合宿者数の増加をめざし、引き続き KPI 達成に向け事業を展開していく。

○数値目標の達成状況について説明する。(資料 2 A4 版)

全体を通して、現段階では、概ね目標数値について順調に推移していると考えられるが、今後、人口減少、高齢化などの要因による数値の低下が懸念されるため、引き続き重点プロジェクトについて PDCA サイクルを実行し、戦略会議及び関係機関・団体との協議等を進めるなかで、目標年である平成 31 年度に向け数値目標の進捗管理をしていく。

[鈴木議長]

○「合宿の聖地創造事業」説明内容について、ご質問・ご意見をいただきたい。

[喜多委員]

○新規招致チーム数の訂正について、再掲及び数値目標のまとめで記載している箇所も 6 チームから 9 チームの訂正としてよいか。

[大橋企画課長]

○再掲及び数値目標すべての「新規招致チーム数」KPI について、6 チームから 9 チームに訂正願う。

[喜多委員]

○【No. 24】宿泊室バリアフリー化事業の実績 39 人について、すべてパラリンピック競技団体ウィルチェアーラグビーの実績か。

[スポーツ課坂本課長]

○すべてパラリンピック競技団体ウィルチェアーラグビーの延べ利用者の実績である。

[吉田委員]

○数値目標の合計特殊出生率について、横ばいの 1.36 となっているが、計画期間で 0.14 ポイント増の達成は可能か。

[大橋企画課長]

○厳しい面もあるが、各事業を進め、数値目標の達成をめざす。

[吉田委員]

○総合戦略以外の各施策も踏まえた数値目標だと思うが、横ばいの状況のため、0.1 ポイントでも増となる取り組みを進めてほしい。

[笹村委員]

○おいしい合宿地づくりについて、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向け、グローバル GAP の取り組みが重要であるが行政の支援等の対応は。

[井出経済部長]

○グローバル GAP について、取り組みの主体となる農業者への支援が重要だと考える。今後、JA、関係機関と連携し、共通認識を持ったうえで、どのような支援ができるか検討し、進めていきたい。また、本日開催される 1 市 2 町での農業担当者会議の場においてもどのような支援、対応ができるか検討する。

5 そ の 他

[鈴木議長]

○次に、「5 その他」であるが、意見等はあるか。

[大橋課長]

○次回の開催予定について、事業が概ね完了する 11 月頃予定しているので出席願いたい。

6 閉 会

[鈴木議長]

○これで第 1 回「士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を終了する。